

歯の健康をかんたんに

歯の根の治療

診察をしていると患者さんから、「むし歯が深くなったら入れ歯ですか?」と質問されることがあります。最近歯を抜かず治療する技術が進んでいるので、すぐには取り外し式の入れ歯にならないことが多いです。しかし、乳歯が抜けたときぐらいいか歯を間近にみることもがない一般の方には、むし歯で歯がだめになると歯茎に何も残らないと思われのかもしれませんが、歯には骨に埋まった根っこがあり、それで咬んだ力が骨に伝わるのです。

ただし、深いむし歯になったときには、根っこの中の神経の管をきれいにする歯内療法あるいは別名、根管治療が必要になります。歯内療法は目に見えない根っこの部分を治療するので、わかりにくいかもしれませんが、「歯内療法は目には見え

ない歯の大切な基礎工事」です。この根管治療における最大の敵は口の中の唾液や歯垢などです。これらの中には多くの細菌が存在し、それらが根の神経の管の中に入ると治療が非常に難しくなります。そこで治療中は、口を開けておく必要があります。途中でのうがいもよくありません。また、治療の器具はエックス線写真でしかわかりませんので、何回かエックス線写真を撮ることになります。口を開けたままのほぼ同じ姿勢で、ある程度の時間がかかる治療なので、患者さんにとっては少々苦しい治療になるわけですが、「歯は一生の友達、根は一生の支え」となるように歯科医はがんばって治療しています。歯内療法が完了してはじめて、土台やかぶせの型をとる治療に進めます。

「抜歯をしないための歯内療法」歯内療法は歯の根の治療です」をよろしく願っています。
 (かっこの中の標語は日本歯内療法学会が今年選定したキャッチフレーズです)

(大阪府歯科医師会 学術部)